

初観戦でも楽しめる

全国ビルクリーニング技能競技会ガイド

●ビルクリ競技会って、いつもヒューマンフェアでやってるけど、実は一度も見に行った事がない。

●知ってる人が出るわけでもないし、あんまり興味ないなあ…。

…サッカーや野球のようなスポーツのように、大体の人がなんとなくルールを知っている…というわけでもない本競技会。

しかも、自分の地区から選手が出ているらしいという事は知っていても、ルールも、背景も知らないままでは、楽しめない！

本特集企画は、そんなあなたに贈る「ビルクリ競技会を少しでも楽しむため」の企画です。

競技会とは何か、どんなコートを使うのか、そしてルールや見どころまで、かんたんに解説します！

●全国ビルクリーニング技能競技会って？

●競技を行うコート・使用資機材について

●競技会のルールについて

●大会をもっと楽しむために！

●意外と長い？大会の歴史

●ひと目でわかる！

これまでの入賞者数！



全国ビルクリーニング技能競技会って？

全国ビルクリーニング技能競技会とは

全国のビルクリーニング技能士約5万人を代表して、2年に一度、9地区の予選大会を突破した18名の代表選手が集い、『ビルクリーニング技術の日本一』の座をかけて戦う大会です。

1989年に第1回ビルクリーニング競技会が開催され、今年で第15回を迎える本大会。競技種目は、「弾性床材の表面洗浄床維持剤塗布仕上げ作業」。

…なんだかパツとイメージが沸きにくいですが、分かりやすくいえば、“床の表面洗浄をして、ワックスを塗って仕上げる”という、シンプルなもの。

作業時間は20分と定められていますが、本競技会には、ビルクリーニング技能検定のような「作業手順の決まり」

はありません。事務所の一室を想定したコート内を、いかに効率よく、プロとしての所作を見せられるかを競い合います。

大会のために訓練を積んだ出場選手。その選手らの競技を、熟練のプロである審査員達が隅々まで目を光らせ、厳正なる審査を行います。

地区の代表でもあり、所属企業の代表でもある選手たちは、自らの挑戦はもちろん、地区のオーディエンスから「今年こそ〇〇地区初優勝！」「〇〇地区には負けられない」「連覇を目指すぞ」という声もあれば所属企業の社長からの「しっかりやってくれ、頼んだぞ」という無言のプレッシャーが、あるとかないとか…。

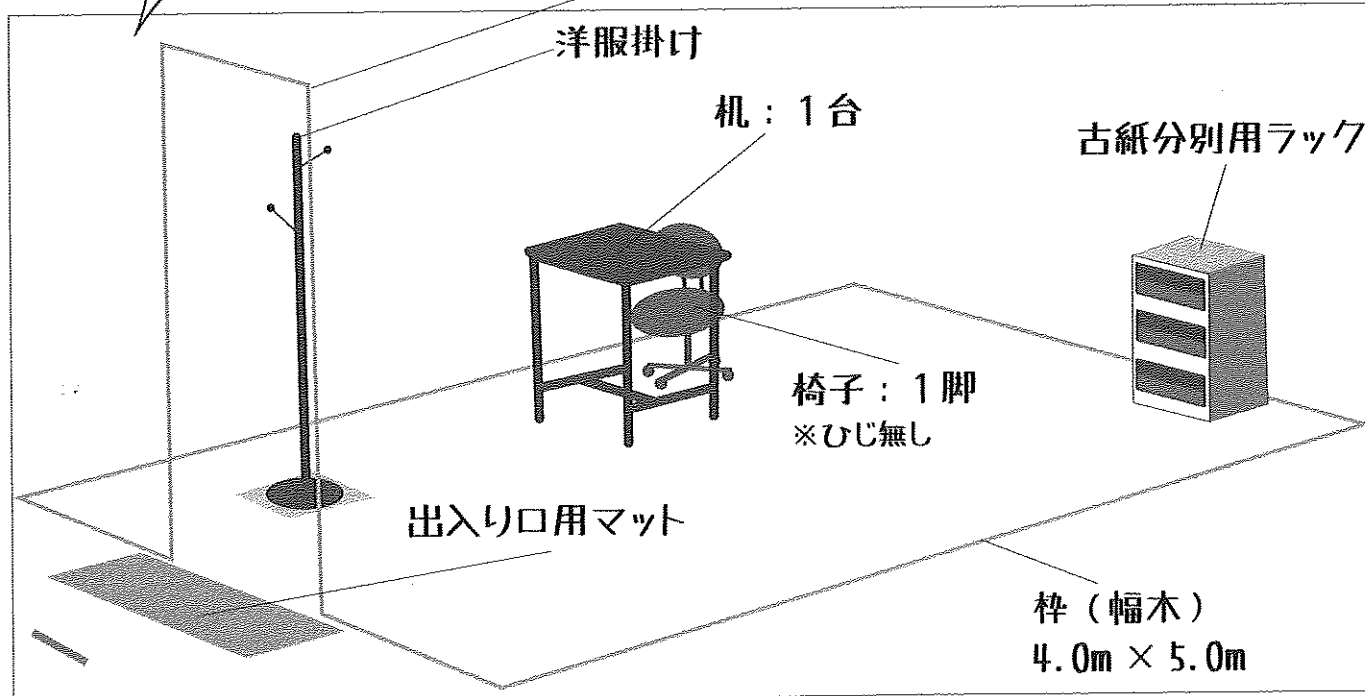
地区代表の意地と、所属企業のプライドをかけた闘いを、お見逃しなく！



競技を行うコート・使用資機材について

これが競技の舞台となるコートです！

競技で使用するコートは、事務所をイメージして作られた横4メートル×縦5メートルで、面積は20㎡。このコートがステージ上に2つ作られており、A、Bそれぞれのコートで、同時に競技が繰り広げられます。



<使用資機材一覧>

- 作業カート
- タンク付きポリッシャー
- パッド台
- パッド
- 飛散防止カバー
- 吸水バキュームクリーナー
- 送風機
- コードリール
- 作業標示板
- 文化ちり取り
- 小型ほうき
- モップ柄
- 乾式モップヘッド
- ダストクロス（不織布）
- モップ房糸（白）
- フラット型モップホルダー
- フラット型モップラージ
- タオル
- ドライバー（マイナス）
- ポリッシャー用マット
- 収納ケース
- 床維持剤入れ容器2リットル



競技会のルールについて

1. 競技種目

競技種目は、「弾性床材の表面洗浄床維持剤塗布仕上げ作業」とする。

2. 作業面積

作業面積は、20㎡（4.0m×5.0m）とし、幅木により区画されたものとする。

バックヤードおよび保管庫の面積は、会場スペースの都合により大きさが変更する場合もある。

3. 作業時間

作業時間は、20分以内とする。ただし、作業は同作業時間を過ぎててもすべて完成させる。

4. 作業項目

作業はコート内において、作業準備・除塵・洗浄・汚水取り・仕上げ拭き・乾燥・床維持剤の塗布・後始末につ

いて計時および判定を行なう。

審査基準は別途定める。

5. 競技コート仕様

競技にあたっての作業仕様は、次に示すところによる。

(1) 競技コートの床は、ビニル系の床材とする。

(2) 競技コートの構成は、おおむね参考標準会場図のとおりとする。

競技コートはA・Bコートの2面で行う。観客席から見てAコート左、Bコート右とする。

選手は、競技会前日の会場下見の際、各自確認するものとする。

(3) 床のゴミは、「おがくず」とし、一面について50mℓ程度を撒いたものとする。

(4) 競技コートにある幅木は壁面を、入口のポール（高さ2m、幅1.2m）は扉の枠を想定して作業を行うものとする。

(5) 保管庫には作業カート、吸水バキューム、ポリッシャー、送風機が置いてあるものとする。

(6) コードリールは、固定してあるものとする。

(7) 競技コートには事務机1台、いす（ひじ掛けのないもの）1脚、古紙分別用ラック1個と洋服掛け1本を置くものとする。

(8) コート内の備品

①机：1台

ビルクリーニング科実技訓練用組み立て机

②いす：1脚

W565×D515×H740～830mm

③古紙分別用ラック：1個

W562×D383×H700mm

(株) テラモト「エコペーパーソートⅡ」

(品番：DS-187-303-0)

④洋服掛け：1台

Φ335mm×H1,843mm

山崎産業(株)「コートハンガーLA」

(品番：YZ-01C-IE)

台座：W500×D500mm

タイルカーペット1枚分の面積

をすることもある。

8. 採点

(1) 演技得点と作業時間得点とする。

(2) 各競技終了後、競技者の作業時間を公表する。

9. 使用資機材【資機材表】

作業に使用する資機材には、次の制限を付す。

(1) 支給された資機材以外のものは、一切使用しない。

(2) 競技開始後は、故障または破損した場合以外、原則として資機材の再支給はしない。

ただし、競技中に資機材の異常に気がつき、その場で審査員に申し出て、審査員から認められた場合は計時を一時停止し再支給する場合もある。

10. その他注意事項

(1) 競技コートの設定および準備はすべてスタッフが行なう。

(2) 競技終了後の後片付けはスタッフに従うこと。

(3) 競技時の服装は、作業に適したものであること。



▲審査する側も全力です！（2013年第13回大会）

6. 作業仕様

(1) 選手はスタート前（計時開始前）に事前準備した資器材を競技コート内へセットする。その際、作業カート下段内の資器材設定は自由に行える（移動可）。

ただし、ポリッシャー、吸水バキュームおよび送風機のコード巻き直しはできない。

(2) 競技コートにある机・古紙分別用ラック・洋服掛けは、移動しないものとする。

(3) 水拭きは2回拭きとする。

(4) 作業終了後、いすは置いたままとし、送風機は電源を切らずにしておくこととする。

(5) 作業終了後、資機材は所定の位置に戻すこととする。

7. 審査

(1) 審査は「審査基準に関する取り扱い」により行う。

(2) 審査員は各支部代表指導講師9名とする。

(3) 審査員席（テーブル）は設けてあるが移動して審査



大会をもっと楽しむために！

●まずは独特の雰囲気を感じてください！

雰囲気、と言われても。なんのこと？と思われた方も多いのではないのでしょうか。ヒューマンフェアでは、毎度おなじみとなっている本大会ですが、同フェアで開催されている『ガラスクリーニング選手権』の、スポーツを観戦しているような盛り上がりとは、一味違います。

本大会では、毎年競技が始まると、観戦している方だけでなく、近隣のブースに至るまで、しんと静まり返ります。**武道の試合**をイメージしていただくと分かりやすいかと思います。作業は「**礼に始まり、礼に終わる**」。そんな全国ビルクリーニング技能競技会は、並居るライバルとの激闘…というよりは、

「**自分自身との戦い**」。この緊張感を是非感じてみてください！



●応援合戦が熱い！！



近年では毎回開催されている応援合戦。今年は、いつもの応援合戦に、

「**応援団賞**」が設けられた事で、更に応援に熱が入ります！

全国の各地区から選手が集うため、応援団も、わりと地域色豊か。

過去には、東北地区選手の応援に“なまはげ”が現れるなど、見ごたえのある応援が繰り広げられてきました。今年は応援団賞の影響で、どこまで激化するのか！ ぜひその目で確かめてください。

●競技の見どころは…

…で、肝心の競技はどこを見たら面白いの？

と、言うことで、「ここがポイント」というところをご紹介します！

本大会では、検定とは違う備品がコートに置かれており、また、検定のように手順等に関する細かいルールはありません！

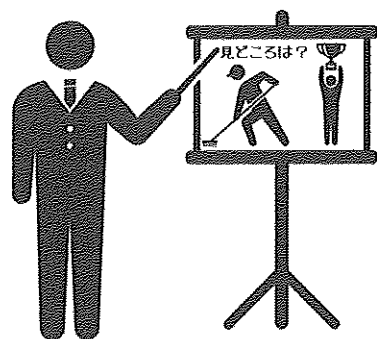
あくまでも、「**弾性床材の表面洗浄床維持剤塗布仕上げ作業**」をいかに確実に、いかにスマートに、効率よく仕事をするのか、というところが主なポイントです。

そのため、出場選手はみな、確実な効率のよい仕事のほかに、

「**魅せる動き**」…を意識したトレーニングを積んできています。

巻頭カラーページの取材を行う中で聞けたお話だと、選手の歩き方や姿勢など、細かな所作まで指導を行っているところもあるとか！作業だけでなく、姿勢や美しい所作にも注目です！

また、作業の中でも、バキュームやポリッシャーといった機械を使わない作業（モップがけなど）には、「**選手の実力**」が現れやすいとのこと！こちらも要チェック！



さらに楽しむためには…
本誌巻頭のカラーページを
ぜひご一読ください！



意外と長い？大会の歴史

大会の歴史は、実は意外と長い。

「全国ビルクリーニング技能競技会」は、1989年（平成元年）に開催された業界イベント「ビルメン幕張'89」の一大イベントとして、当時の（一財）建築物管理訓練センターの主催により実施された。

競技仕様は、「弾性床材の表面洗浄ワックス塗布仕上げ作業」であり、今日に至るまで続いているもの。ちなみに、数ある清掃作業のうち本仕様が採用された理由としては、

- ①ビルクリーニングの、たくさんの単位作業を総合的に組み合わせたものであること
 - ②クリーニング作業に占めるウェイトが高いこと
 - ③技能検定の課題であること
- などによる。

コートサイズも現在と変わらない4.0m×5.0mであり、20㎡の事務室を予定したコートで一連の作業を行うものとされており、今日の競技会にいたる基礎は第一回大会で設定されたものとなっている。

この大会には、全国9地区より14名の選手が出場。初の試みということもあり、多くの見学者が詰めかけたため、大型のモニターテレビをロビーに配置、放映することになるなど、当時の業界人から多大な関心を寄せられた。

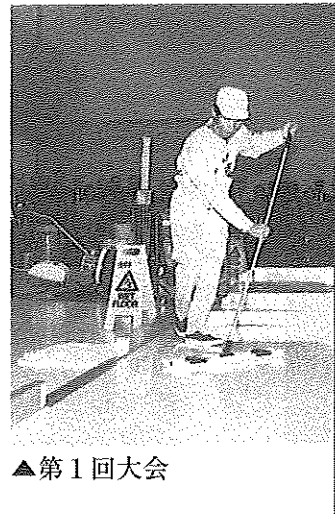
また、業界人だけでなく、NHKをはじめとした多くのテレビ局や新聞社が取材に訪れ、その日の各放送局のニュース番組等で報道され、当時「3K労働」であるとされていた「ビルメンテナンス」業界に、社会に「ビルメンテナンス業は、高い技術を持つ職人がいる仕事である」ことを社会に知らしめた。

また、当時の労働大臣賞を受賞した東京地区代表の橋本選手のもとには多くのメディアが詰めかけ、テレビ出演や、技術の実演を求められるようになるなど、光が当てられたことで、社会イメージが大幅に改善するなど、開催の目論見どおり、業界のイメージアップに一役買うこととなった。

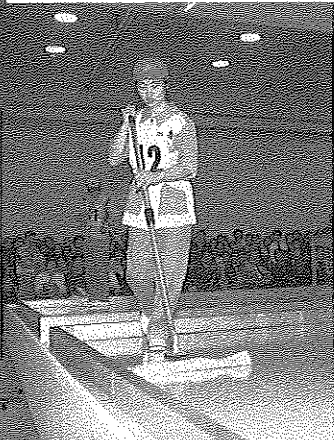
この大会が大好評を博したため、その後は全国協会の資機材展に合わせた隔年で開催を続け、その中で時代の流れに合わせて、資機材の変更やコート配置物の変更、また競技時間の短縮などの細かなアップデートを図り、今日に至っている。

前回から今回でも、変更点がいくつか存在しており、

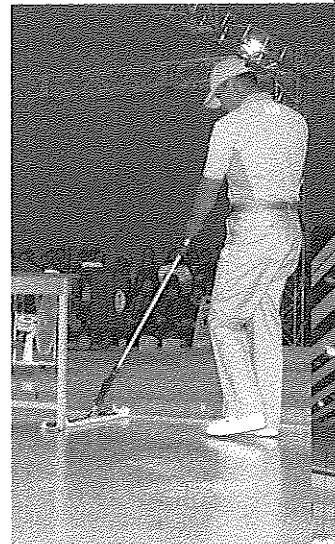
- ①応援団賞の追加
- ②全地区からの出場選手数を2名ずつに統一などが挙げられる。



▲第1回大会



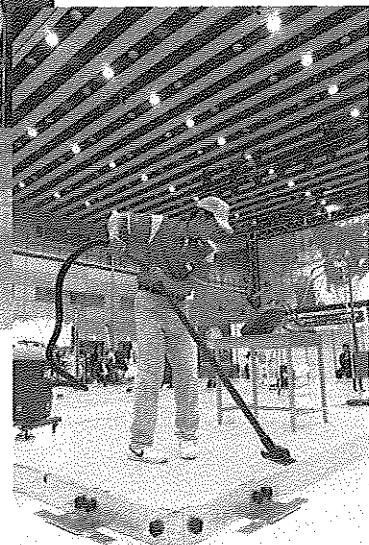
▲第5回大会



▼第14回大会



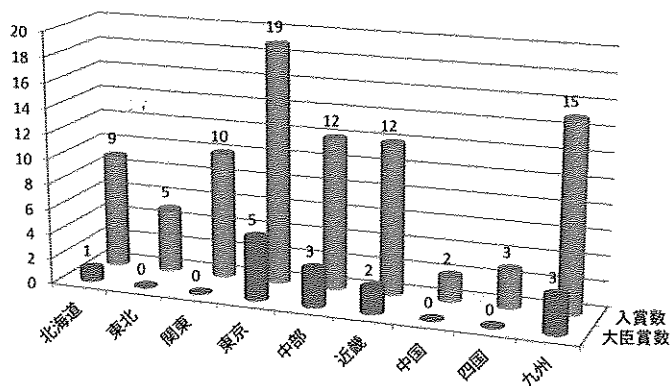
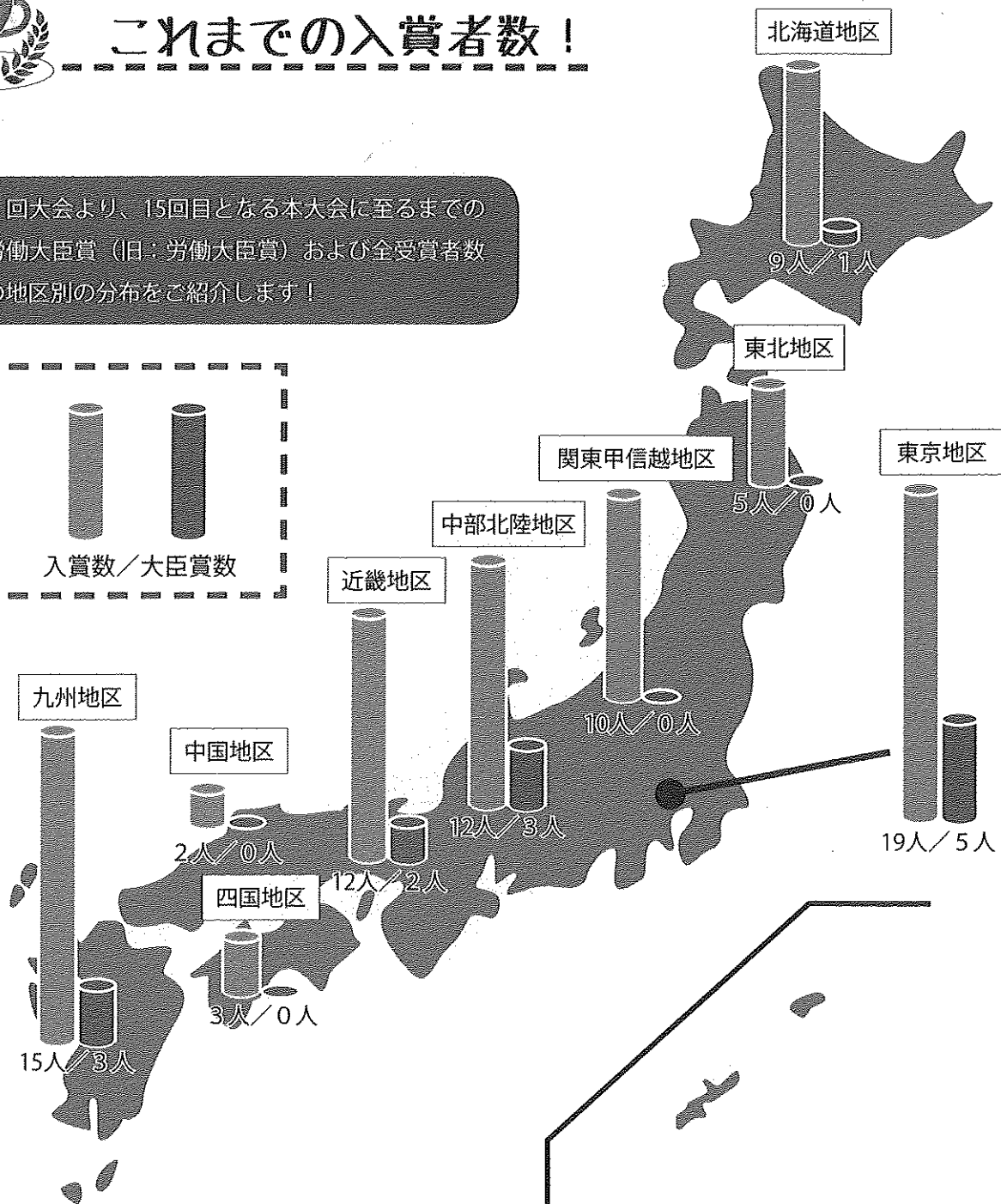
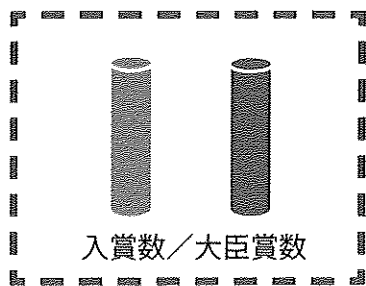
▲第10回大会





ひと目でわかる！ これまでの入賞者数！

第1回大会より、15回目となる本大会に至るまでの厚生労働大臣賞（旧：労働大臣賞）および全受賞者数とその地区別の分布をご紹介します！



次号の巻頭カラーページでは、第15回全国ビルクリーニング技能競技会、第4組～6組の出場選手の紹介をいたします！

お楽しみに！